



14.1

2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。

15.1

2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。

新井 由起子
歯学部
歯科麻酔学講座

経鼻用気管チューブを経口挿管に応用して 出血と損傷を削減できるかを検証する臨床研究

新型コロナウイルス感染症の影響により日本歯科麻酔学会から経鼻挿管の必要性を十分に検討するよう提言があったため、通常は経鼻挿管を行う手術に対して、経鼻用気管チューブを用いて経口挿管を行ったところ、良好な麻酔管理が行えました。このような症例は、経鼻挿管による合併症を防ぐことで、安全な麻酔・手術につながるだけでなく、不必要な出血及び止血処置に伴う、医療器具の使用の削減につながると考えます。



message

SDGsをより深く理解し、意識した日常生活を送ることで、学生の見本となり市民の見本となればさらにSDGsの活動が上げられると考えます。